

地震の石碑 2022 白山中学校 震災追憶碑

本多 亮

(神奈川県温泉地学研究所)

小田原市立白山中学校は小田原市役所から北に 1km あまり、屋上にみえるプラネタリウムのドームが目印になっています (写真 1)。小田急線と伊豆箱根鉄道大雄山線がちょうど交わるあたりにあり、最寄り駅は大雄山線の五百羅漢駅もしくは小田急線の足柄駅です。近くには五百羅漢で有名な玉宝寺があります。校舎は箱根から続く多古丘陵の端に位置し、道路から数メートルの高さにあります。この位置に小学校が建てられたのは、大正 9 年のことです (図 1～3)。道路から階段をのぼり、昇降口に向かって左手の体育館の前に、縦 220cm、横 120cm あまりの「震災追憶碑」がたっています (図 3；写真 2)。昭和 4 年に震災犠牲者の 7 回忌に合わせて建てられたもので、表の題字は「神奈川県知事 山縣治郎書」とあります。裏の碑文は当時の学校長である森丑五郎氏によるも



図 1 大正 12 年 9 月の校舎配置 (「多古の郷土誌」より)。北校舎の西半分と実科高等女学校の割烹室 (図では職員室)、各所の便所を除いて崩壊しました。

のです。石碑の碑文には 17 名が亡くなったと刻まれています。後述する報告書の記録では児童生徒の犠牲者は 16 名です。昭和 34 年発行の足柄下郡教育会沿革誌にも、大正 12 年度 12 月 28 日の記録として、「社団法人足柄下郡教育会が震災で亡くなった会員 16 名 (小学校 13、高校 3) と負傷した 6 名 (小学校) に弔慰金をおくる」とあります。「多古の郷土誌」には多古地区の学校以外での死者として圧死者 1 名 (下多古地区の男の子) と書かれていますから、地区の犠牲者全員を追悼する目的で建てられたのででしょう。なお、多古地区を含む足柄村全体の死者数は 187(*) 名でした (小田原市史)。また追悼碑のわきには、裏面に「昭和七年十月 建 誠心會」と書かれた小さな慰霊塔もあります。追悼碑はもともと校舎の南側にあったようですが、現在は西に移動して体育館の前に設置されています (図 2, 3；写真 3)。

* 神奈川県震災誌では 182 名

現在白山中学校がある場所は、もとは明治時代に創立された尋常高等



写真 1 敷地の下を通る道路から見た校舎。屋根の上にはプラネタリウムが見えます。震災追憶碑はこの階段を上がって左手にあります。



図 2：足柄尋常高等小学校・足柄実科高等女学校 平面略図 (昭和 4 年 5 月現在)。「あしがら郷土読本」より。■は震災追憶碑設置予定地。

多古小学校 (現・足柄小学校) の校舎の一部があった場所のようです。足柄小学校 HP の沿革によれば、明治 29 年に現在の白山中学校の位置に新しい校舎が立ち、その後の変遷の詳細は省きますが、大正 9 年 10 月に尋常高等足柄小学校となり、大正 12 年 4 月に足柄尋常高等小学校と改めました。さらに昭和 22 年に 6・3 制導入により小田原市立足柄小学校に変わった

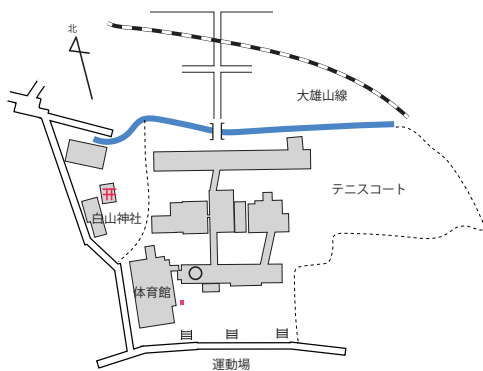


図3 現在の校舎配置 (google map より)。■は現在の震災追憶碑の位置。

際、その校舎の一部を借り受ける形で小田原市立第三中学校が開校しました。これが現在の白山中学校にあたります。昭和27年に足柄小学校が現在の位置(小田原市扇町三丁目)に校舎を新築し移転したため、第三中学校の単独校舎となりました。白山中学校に校名が変更されたのは昭和30年のことです(白山中学校HP、「沿革」より)。

大正関東地震が関東地方を襲ったのは大正12(1923)年の9月1日ですから、このとき現在の白山中学校の場所にあったのは足柄尋常高等小学校(以下、足柄小学校)ということになります。

足柄小学校の被害は、「あしがら郷土読本 教育史編」に、当時の校長、森丑太郎氏が作成した報告書が引用されていますので、これを参考に記述します。

震災前、足柄村は熱海線の開通及び小田原紡織会社の設置に伴う土地発展のため、急激に児童数が増加しており、これに対応するために20万円以上の費用をかけて大正9年に、足柄小学校及び併設の実科高等女子学校の校舎を新築したばかりでした。

しかし同年9月1日の関東大震災では、新築して3年目の足柄小学校の校舎は、北校舎の西半分と実科高等女子学校の割烹室(図1では職員室)、各所の便所を除いて崩壊してしまいました。丘陵上の運動場

は道路側に押し出され中央には2m近い深さの溝ができ、校舎周辺の石垣は全て崩壊し(写真4~6)、正門にかかっていた橋も落下しました(写真7, 8)。

当時足柄小学校は、尋常科と高等科併せて児童数2105名を数えるマンモス校でした。震災当日は小学校で毎月開かれる児童役員会の日で、各学級は7時に始業し10時半に放課となっていたそうです。したがって児童のほとんどは帰宅していましたが、児童役員と自習のために残っていた児童合わせて96名が校舎内にいたとされています。一方、同じ敷地内の実科高等女子学校の生徒数は109名で、10時半の終業後には45名が自習のため校舎内にいたとされています。

地震時には、小学校校舎内には報告書に名前が記載されているだけでも11名以上の教師がおり、地震後すぐに救助活動に当たっています。しかし不幸にも、児童生徒6名(小学校男子1名、高等女子学校5名)が、倒壊した梁の下敷きになるなどして命を落としました。小学生男子は落ちてきた瓦にあたって亡くなったとも伝わります(あしがら郷土読本 郷土史編)。学校以外の場所でなくなったのは、帰宅途中の崖崩れに巻き込まれた児童3名、家庭で圧死あるいは負傷後に亡くなった児童7名とされています(合計16名)。いずれの学校で



写真2 震災追悼碑と慰霊塔。



写真3 追悼碑は体育館の前の少し高くなったところに立っています。かつては、右手に見える校舎に近い場所にあったのかもしれませんが(図2)。



写真4 グランド南側から見た校舎。このグラウンドは、震災後に校舎東側の小山を切り崩し、田んぼを埋め立て造られました。切り崩した場所は現在、学校のテニスコートになっています。

も、職員の犠牲者は出ていません。

震災後、学校の再建を目指したものの、震災前の校舎新築時の負債がある上に、村唯一の大きな財源である小田原紡織工場の全潰解散のために税収入が減少する中、村有地を売却して資金を作るなどかなり苦労したようです。それでも震災翌年から、小学校の校舎の新築工事が進められ(写真9)、仮校舎であった実科女子高等学校が昭和3年に竣工して、震



写真5 南東側から見た白山中学校校舎は右手の木に隠れて見えませんが、その下には階段が見えます。この階段の上には通路はなく、階段だけが残されています。この道路を先に進むと、さらに二つの階段があります。写真1の階段が一番西側のもので、中央にもう一つあります。震災時、この階段のすぐ上には運動場があり、石垣の崩壊とともに大きな亀裂ができたとされています。写真左手には、現在の運動場があります。



写真6 南西側から見た白山中学校校舎左に曲がると白山神社があります。石垣の上に見えているのは体育館です。この道路はそれほど広くありませんが、車の通行量が多いです。関東大震災の際には、西側も南側も石垣が崩壊しました。

災復旧学校建築は一応終了しました。

他の小学校の被害についても、神奈川県震災誌から簡単に引用しておきます。足柄小学校は被害種類の「全潰」に区分されています。片浦、真鶴、小田原第一、下中、国府津、酒匂の各校が「焼失」とされているのとは異なり、地震動による被害であったことが分かります。ちなみに、「全潰」の小学校は他に、小田原第二、第三、千代、岩、福浦、吉浜で、合計7校、「半潰」は湯本、須雲川、早川、片浦の4校、「小破」は前羽、大窪、温泉、宮城野、仙石原、土肥の6校です。

碑文の結びには、「時間がたち復興が進むにつれて記憶が薄れ、当時の深刻な状況を一時的なものとして忘れてしまわないように、戒めとして震災の悲惨な体験を後世に伝える」との決意が刻まれています。多古地区は、西側の箱根から続く多古丘陵と東を流れる酒匂川にはさまれた地域で、灌漑用の水路も多くあり穴部堰など一部は現在でも使用されています。被害の記述としては、建物の倒壊の他、丘陵・崖の崩壊、それに伴う用水路の閉塞と洪水が多く、土地の状況を反映しています。現在は土木技術が発達し地震対策も施されてはいるはずですが、マグニチュード8クラスの直下型地震は関東大震災以降経験が無いことを考えると、やはり急傾斜地の周辺は注意が必要でしょう。また、現在では暗渠となっている水路なども陥没することもあるかもしれません。自宅周辺の道路の下になにかがあるか、普段からよく知っておく必要があるでしょう。

大きな地震が発生するたびに過去の記録の重要性が指摘される例として、地震による直接的な被害の他に、津波の襲来や流言飛語があります。よく知られているように、大正関東地震の直後は朝鮮人が井戸に毒

を入れたというデマが広がり、多くの人が殺害されたり迫害を受けました。現在は当時に比べれば格段に情報通信網が発達していますが、それでも「動物園からライオンが逃げた(2016年熊本地震)」(朝日新聞デ



写真7 校舎裏側(北側)の石垣と今も残る穴部堰。旧正門に続く橋も見えます。関東大震災の時には現在と同様、石垣の上に橋が架かっていましたが、石垣は崩壊し橋も落ちました。



写真8 旧正門
現在も穴部堰の上にコンクリート製の橋が架かり、かつて正門だった時代からの石柱が立っています。この4本の石柱は、大正14年の校舎新築時の写真(写真9)にも写っています。

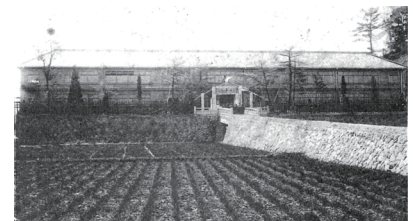


写真9 大正14年当時の校舎(あしがら郷土読本より) 震災後に新築された校舎と思われます。正門には、現在も残る4本の石柱が見えます。

ジタル,2017) とか、「福島で外国人が井戸に毒を入れている(2021年2月13日福島沖の地震)」(朝日新聞デジタル,2021) などといったフェイクニュースが流れることがあります。また、2018年6月に大阪北部地震が発生した際も外国人に対する差別的ツイートを投稿された(朝日新聞デジタル,2018) ように、時代が変わり科学技術が発展しても非常事態に直面したときの人間の行動はあまり変わらないようです。こういったことも含めて、「相警め」の必要があるでしょう。

以下、碑文

「震災追憶碑」

朕前古無比ノ天殃に際會して郵民の心愈々切に寝食爲に安からず

これ大震災直後に下し賜ひたる詔書の中に宣はせ給ひし所恐懼感激唯口

聖思の無疆を拜す

維時大正歳次十二月朔日午に近く倏忽として大震関東一帯を襲ひ更に

之に次々に劫火を以ってし帝都は殆ど廢墟と變し横浜も亦焦土と化す其

の災害の及ぶ所一府五県の広きに亘り許多の財寶と生靈とは須臾にして

喪失し悠久の文化一時に湮滅せしの観あり

比の間交通機關杜絶し流言蜚語頻に行はれ人心恟々悽愴筆舌を絶す湘

南地方は震源に近く其の惨害激甚新築三年の本校々舎殆ど倒壊し生徒児童

の歿死者校の内外に於て十七名を算せり四圍の状況を顧れば復舊の前

途殆ど望を絶し恚々断腸の思あらしめたり慈に震災後満六年校舍復興規

模前二倍す當時を回想すれば轉た感慨無量なるものあり

抑今日の栄華を見る偏に広大無邊なる皇恩の内外の同情後援の賜なる

と挙村教育尊重の志念厚きに因るとを思ひ愈々国民精神を振作し質実剛

健醇厚中正並々教育価値を創造し地方自治の発展に資し国家の興隆を翼賛して天の試練に答へて報恩の誠悃を竭さざるへからず時移り物備はると共に深刻なる當時の印象を忘れ小成儉安に墜せんことを虞れ宵謀りて碑を建て俱に相警め又箴後者に貽さんとすと云爾
昭和四年九月一日

学校長従六位 森丑太郎誌
磯崎秀太郎

【用語の意味】

天殃(てんおう) 天災

無疆(むきょう) 限りがないこと
郵民(しゅつみん) 人々を不憫に

思つて救うこと

倏忽(しゅつこつ) たちまち、突然に

須臾(しゅゆ) わずかな間

湮滅(いんめつ) 跡形もなく消えてしまうこと

恟々(きょうきょう) おそれおのくさま

悽愴(せいそう) 非常にいたましい、悲惨な様子

恟々(そくそく) 悲しみいたむさま
轉た(うたた) ひどく

振作(しんさく) 奮い起こさせること

醇厚中正(じゅんこうちゅうせい) 人情が厚いこと、公正であること

誠悃(せいこん) 真心

竭(けつ) なくす、尽きる

小成(しょうせい) わずかばかりの
儉安(こうあん) 安樂をむさぼり、

将来を考えないこと

相警め(あいいましめ) 同じ過ちを犯さないようしかる、警戒する

箴(しん) いましめ

「慰霊塔」

裏面 昭和七年十月 建 誠心會

参考文献

野瀬徳治(1984) あしがら郷土読本 郷土史編・教育史編. 小田原市立足柄小学校 PTA 発行. 296pp.

野瀬徳治編著(1990) 多古の郷土誌. 376pp.

足柄下郡教育会沿革研究委員会(1959) 足柄下郡教育会沿革誌. 153pp.

神奈川県編著(1927) 神奈川県震災誌. 848pp.

小田原市(1993) 小田原市史 史料編 近代 II. 936pp.

足柄小学校ホームページ https://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/swas/index.php?id=ashigara_s

白山中学校ホームページ https://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/swas/index.php?id=hakusan_c

朝日新聞デジタル 2017.4.25 デマ拡散、被災地の教訓 善意が裏目「責めるのは酷」 <https://www.asahi.com/articles/ASK4L56Q7K4LPTIL01M.html>

朝日新聞デジタル 2021. 5. 3 「井戸に毒」投稿者に2度問うた 虐殺の現場訪ねた記者 <https://www.asahi.com/articles/ASP517RWXP4PPTIL03C.html>

朝日新聞デジタル 2018.6.19 地震後に差別的ツイート相次ぐ 法務省が注意喚起の投稿 https://www.asahi.com/articles/ASL6M5H7WL6MUTIL02S.html?iref=pc_ss_date_article